

私の博物誌

題字 石川進

第十八回

「もも子」

一九九三年八月最後の土曜日のことだった。出産間近の娘が戻っていて、大きな腹をかかえながら細々とした用意を手元で行い、私は別の部屋でテレビを見ていた。妻はまた別の部屋で乾いた洗濯物をたたみ、三人三様の時間が過ぎて行った。夕食は大分前に済んでいた。娘が出て来て「お父さん猫がいる！」との話で、耳を澄ますと、確かに子猫のミャーミャーという声が、目の前の観音堂から聞こえてくる。

懐中電燈を点けて娘と行くと、千代紙を貼り付けた上に女の子らしいハンカチを敷いた小箱の中で、生まれて間もない純白の子猫が入っていた。目は開かず臍の緒も付いたままで必死にうなっていた。雌猫の「もも子」に触れた最初の夜の八時を廻った頃だった。娘と二人で連れ帰り、浅い段ボール箱にタオルを敷き、一先ず休息をした。冷蔵庫の牛乳を温め、ガーゼを切って紐状にした

ものを浸し、滴になって落ちるタイミンを計りながらの授乳だった。妻と娘に子猫を任せて街中のペットセンターへ駆け込み、小動物用の哺乳瓶を手に入れて飛んで帰った。子猫はすくすく育った。臍の緒が先か、目の開くのが先だったのかは定かには思えない。

九月が来て六日の夜七時には初孫も無事生まれた。男の子を授かり、私達は皆喜び合った。孫の男児には「哲」と名付け、声がやたら大きく我が強い子猫には「もも子」と名付けた。

その子猫には妙な癖があり、私達夫婦には困った癖だった。猫の親ではないことに、ある種の菌痒さが私達をさいなむのだったが、どうしてもしつづけれないのが、トイレだった。

ベッドの下に置いた箱から出ると様子で判るので、妻がそれまでの猫と同じように、ティッシュペーパーで肛門をさすつても頑として、大小便ともに出ては来ず、箱

た。

しかし、悪いことばかりではなく、もも子の三分の一しか生きなかつた兎のメルモと生活するようになると、トイレの習慣が劇的に変わり、妻は喜んだ。不思議なことである。兎が猫をしつづけたのだ。

そして、もも子はメルモをかわいがり、毎日のように兎の頭を猫がなめている様子は、ほほえましい光景だった。

やがて弱つたもも子を見舞うため、娘と孫たちが駆けつけ、一晩一緒に過ごして次の元日の夕方、帰る娘たちをもも子は弱々しく見送った。そして、正月二日の昼前に「もも子」は旅立った。

懐の中で小便の温かさ。嬉しそうになく「ニャー」という声は今でも耳に残り、親を知らないもも子の愛しさは格別のものがある。



筆者の膝上のもも子(左)と、メルモ



メルモの頭をなめるもも子

書いている人



石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員、書法探求顧問



老人施設・高齢者賃貸住宅・障害者施設の給食・社員食堂・学食

おもてなしを大切に、そして感動を――

株式会社 **デンミール IWAKI** 〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾52-2 第一すずビル203号
TEL.68-8254 FAX.68-8268

今日も安全運転

- 短期免許取得
- 運転免許ローン有
- 託児所完備
- 卒業生に傷害保険付

公認 湯本自動車学校

いわき市常磐水野谷町千代鶴1の2 ☎43-7781

故人を送る厳粛な儀式。祈る心を真心こめて
やすらぎの杜遠野がお手伝い致します。

■法事会館及びホール

やすらぎの杜 遠野

〒972-0161いわき市遠野町上遠野字赤坂27-1
TEL.0246-89-4777